

スルメイカに標識を付けて、その移動を調べる

中央水産試験場 資源管理部

研究の目的

近年のスルメイカのイカ釣り漁業では、イカの群れを追って広く日本周辺海域の漁場を移動することが多くなった。漁場を選ぶにはスルメイカの移動特性が重要な情報となる。そこで、過去70年余りの間に行った標識放流調査で再捕された約6千尾の移動データを集計し、スルメイカがどのような移動回遊をするのかを調べた。

研究方法

- ① 過去の報告書からスルメイカの標識放流調査結果に関連する情報を探し、標識を付けて放流した日や位置、再び捕獲された（再捕された）日や位置などの情報を整理し、スルメイカの標識放流再捕情報データベースを作成した。
- ② 作成したデータベースをもとにGIS（地理情報システム）を使用し、月別の標識放流再捕図を作成した。
- ③ 北上回遊と南下回遊の直線距離での回遊速度を計算した。

研究の成果

- ① 放流したスルメイカが北上して再捕された期間は6月～12月、南下して再捕された期間は7月～3月であったが、北上回遊期は主に8月以前、南下回遊期は主に9月以降であった。
- ② 北上回遊期のスルメイカは、道西日本海の沿岸寄りを北へ、津軽海峡を東へ移動するものが多く（図1）、南下回遊期のスルメイカは、道西日本海沿岸から沖合へ移動し、日本海の沖合を南西に移動するものが多かった（図2）。
- ③ 標識放流調査のデータが多い6月～9月に道西日本海に來遊する群について、回遊模式図を作成することができた（図3）。ふ化後、成長しながら北海道まで北上してきたスルメイカが再び産卵場へ戻る回遊が明確になった。
- ④ 本州北部日本海から道西日本海の沿岸での北上移動速度は1日に直線距離で1～11km（0.5～5.9マイル）であった。日本海沖合での南下移動速度は1日に5～21km（2.7～11マイル）が多く、40km（22マイル）までみられた（図4）。
- ⑤ 月別の標識放流再捕図をマリネット北海道のホームページ（http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/central/kanri/Surume_tag/surume_tagu.htm）で公開した。

成果の活用面

得られた回遊特性の情報がイカ釣り漁業の漁場選定に活用されることが期待される。

回遊特性を把握することにより、今後漁場形成メカニズムを解明する足がかりになると考えられる。

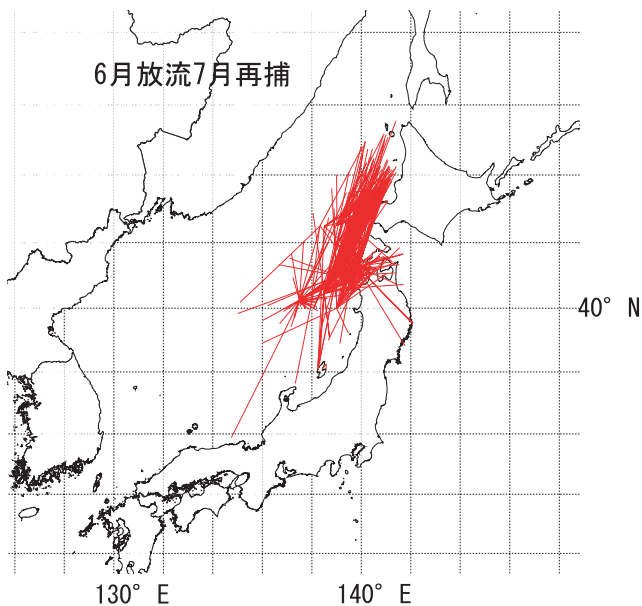


図1 北上回遊期のスルメイカの標識放流再捕図
(6月放流7月再捕)
(注) 赤丸が放流した位置、赤線の先端が再捕された位置を示す。

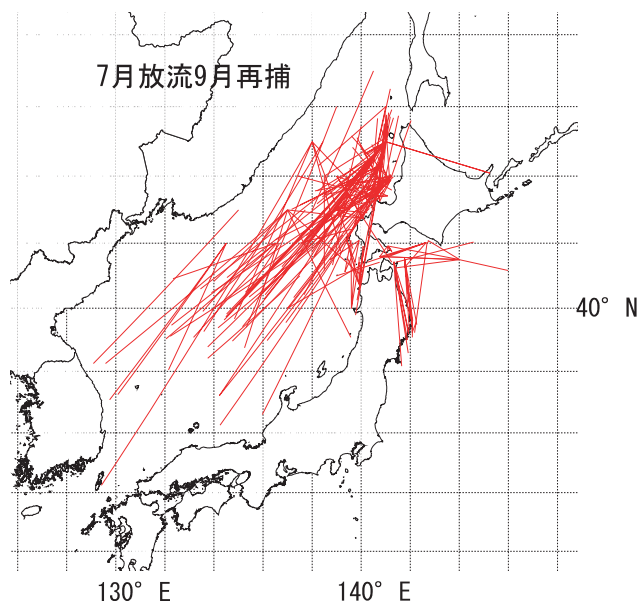


図2 南下回遊期のスルメイカの標識放流再捕図
(7月放流9月再捕)

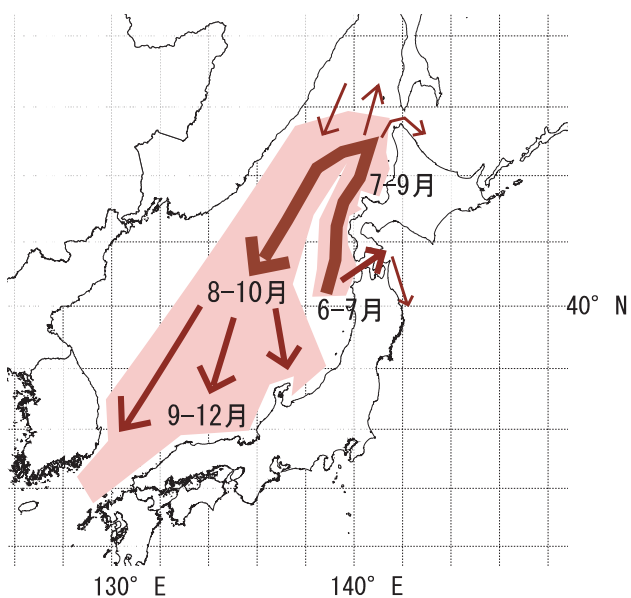


図3 6～9月に道西日本海に来遊するスルメイカの回遊模式図

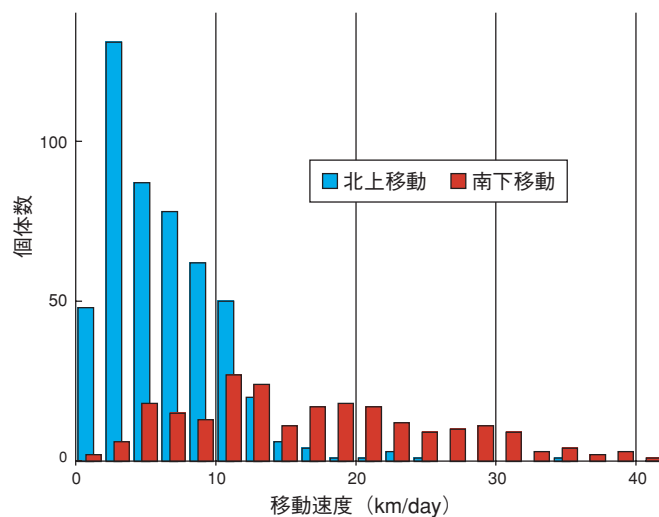


図4 標識放流調査から分かったスルメイカの直線距離での移動速度
(北上移動：本州北部日本海から道西日本海の沿岸での北上回遊、
南下移動：日本海沖合での南下回遊)